



株式会社会津工場 本社工場全景

- 本社所在地：福島県南会津郡只見町
二軒在家字上タモ721-1
- 事業概要：鑄造業
- 常時使用する従業員：165名
(2025年9月時点)
- 現在の売上高：35億円
(2025年9月期)
- 法人番号：7380001019111
- Web： <https://kabuaizu.co.jp>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
鈴木 直記

「会津から世界へ」をスローガンに
独自工法を駆使した圧倒的品質で鑄造業界に革命を起こす

独自工法であるHorizontal Controlled Flow Pouring Process（以下Hプロセス）技術確立し圧倒的品質を売りに2000年4億円、2010年15億円、2025年35億円と25年間で10倍の成長をしました。
今後は更に大手企業からの新作受注を含め大物の生産が出来る体制作りと、切削加工分野を拡充させ加工完成品での納品を増やすと共に、対応できる分野を広げ100億円を目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標



大型造形機導入とM&A等により完成品までの一貫生産・増産体制を確立。T自動車等の信頼を元に2027年以降の新作を設計段階から受注。
今後は年平均20%成長を続け、2034年に売上100億円を目指す。

課題

- ・大型造形機、切削加工機の増設に伴う資金調達
⇒金融機関支援内諾
- ・加工部門強化による付加価値増及び売上増
⇒設備増強投資
- ・M&A買収資金調達とPMI実施計画策定
⇒シナジー効果最大で売上増
- ・更なる拡販活動と次世代経営体制構築

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・切削加工付き完成品納入の体制を確立し、製品1個当たりの付加価値を向上、2027年より年率10%成長へ。
- ・M&Aによる車輛生産の拡大を図る。
(2027年3億円から年率13%で成長し、2032年に8.5億円へ)
- ・T自動車：2027年より量産開始（受注済）
随時立ち上げ、2027年2億円から2032年19億円へ拡大。
- ・S社：2028年より新規量産開始。2032年に4.3億円へ拡大。
- ・F社：2027年よりロボット部品量産開始（0.5億円）
2032年に3.8億円へ拡大。

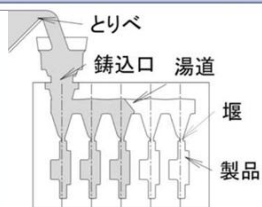
実施体制

- ・営業強化の為に営業拠点（新橋）の体制を強化する。
- ・次世代経営育成を進め5年後を目途に新社長体制を築く
- ・生成AIを駆使し生産管理及びバックオフィス業務の劇的効率化を実現する。
- ・共同ロボットを大幅増設して生産体制の効率化を図る。

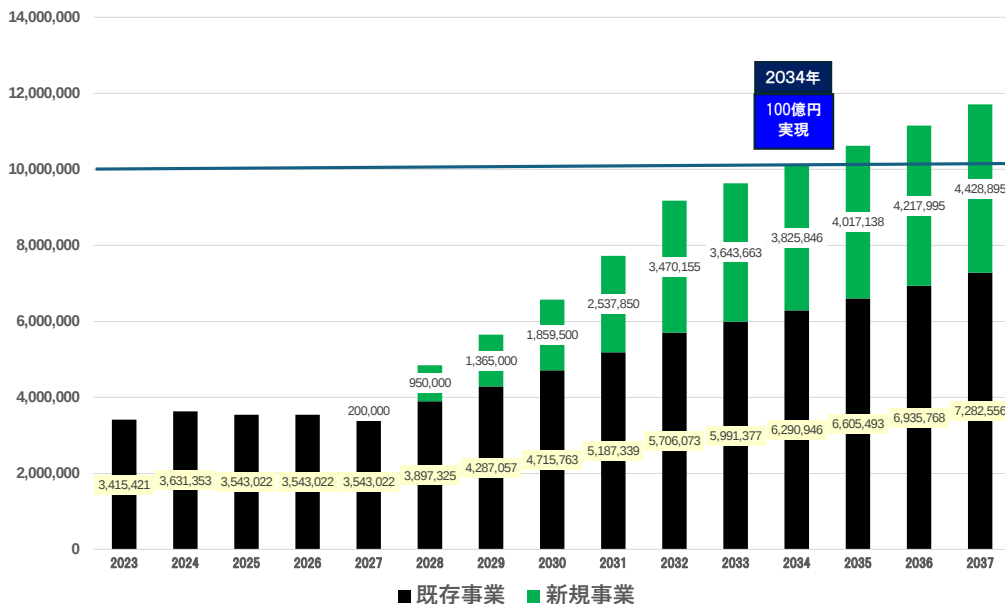
当社の卓越した鑄造プロセスにより100億円企業実現へ

当社の卓越した鑄造プロセス

- 当社は設立49年目の鑄造メーカーであるが、独自工法であるHorizontal Controlled Flow Pouring Process（以下Hプロセス）技術工法の開発を1984年から開始し 1990年代には同工法での量産体制を確立
- 同工法は高精度かつ薄肉を大量生産出来る画期的工法であるため、独立系であるにも関わらずT自動車向けにも卓越性を認証され2015年から納品実現
- その後S自動車とも直接取引を行いT自動車向け新機種以外にF社とも新規ビジネスを獲得



会津工場 100億円企業への道



10年で100億円達成が十分に可能と言える3つの理由

- ① 「7年で売上2倍以上」を達成した圧倒的な成長実績・40期（約15.8億円）から直近決算2026年の47期（約36.3億円）にかけて、すでに売上を2倍以上に急拡大させた実績がある。この時期の高い成長スピードを今後も維持・再現できれば、10年後の100億円到達は極めて現実的な目標である。
- ② T自動車も認める卓越した鑄造プロセスと独自営業と爆発的な牽引力・売上成長の最大の原動力となっている。この事業は過去数年間で驚異的な右肩上がりの伸びを示しており、今後も会社全体を100億円のステージへと力強く引っ張っていくポテンシャルを十分に秘めている。
- ③ 達成に必要な成長率は「すでに経験済みの水準」・現在の約35億円から10年で100億円に到達するために必要な年平均成長率は約11%です。これは、40期以降の急成長期に実際に叩き出してきた伸び率と同等であり「自社の勝ちパターン」を継続できれば十分にクリアできる射程圏内の数字である。

大型設備投資及び組織体制強化で100億円企業実現を加速

- 加工完成品による高付加価値製品の生産体制を構築し、今回の事業で顧客要望に応える為切削加工設備を増設し増産体制を確立する。
- 又同時により大型の鑄造製品に対応する為、大型の造形機（シェルマシン）を導入して、対応範囲を広げる
- 又既存の鑄造メーカー（埼玉県）とのM&Aを実行して傘下に入れ、車輦分野への参入を図ると同時に生産能力の拡大を実現する。
- 増産に対応する為管理部門の効率化を図る為、生成AIやRPAを駆使しバックオフィス業務及び生産管理部門の自動化を図ると共に、生産現場に共同ロボットの増設して生産の効率化を実現する。
- 次世代経営育成を進め5年後を目途に新社長体制を築く。